本社大杉

この巨大な御神木の杉は、樹齢がおよそ800〜1000年です。有名な絵巻『春日権現験記』は、1309年に春日大社に奉納されたものですが、その絵巻には、この木が小さな若木として描かれています。

今日、この杉の古木は高さが23メートル以上、周囲が8メートル近くあります。木の回りに結ばれている麻縄は、悪霊を避けたり、その物が聖なる特性をもっていることを示したりします。

杉の根元から生えている2本目のやや小ぶりの木は、「槙柏（しんぱく）」あるいは「伊吹（いぶき）」という木で、隣の直会殿（なおらいでん）の屋根を貫いて伸びています。直会殿は、例年の春日祭の間、天皇の勅使のための重要な儀式が執り行われる場所です。

御神木は大事に守られており、その成長を妨げたり制限したりすることはありません。こうした理由から、直会殿の屋根に穴を開け、御神木が自然に伸び続けられるようにしているのです。